

## 委員会視察報告書

委員会名	総務常任委員会
視察地	富山県小矢部市
調査項目	1 小矢部市地域公共交通計画について 2 AIオンデマンド交通「チョイソコおやべ」について 3 市営バス（メルバス）について 4 鉄道及び駅活性化の取組について 5 地域公共交通全般について
調査目的	持続可能な地域公共交通についての調査・研究
日時	令和6（2024）年7月2日（火）午後2時30分～4時
場所	小矢部市役所（富山県小矢部市本町1番1号）
調査概要	<p>◆小矢部市の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・富山県の西端に位置、石川県と隣接している。</li><li>・面積 134.07 k m<sup>2</sup></li><li>・人口 27,531 人（令和6(2024)年5月1日 推計人口）</li></ul> <p>◆小矢部市の地域公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・鉄道（あいの風とやま鉄道）</li><li>・民間路線バス（加越能バス）</li><li>・市営バス路線（通称：メルバス、5路線）</li><li>・乗合タクシー（デマンド式、生活5路線）</li><li>・民間乗用タクシー（石動タクシー、高岡交通、津沢タクシー）</li><li>・AIオンデマンド交通「チョイソコおやべ」</li></ul> <p>1 小矢部市地域公共交通計画について</p> <p>（1）計画の期間</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和6年度～令和10年度の5カ年</li></ul> <p>（2）計画の目的</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域特性や地域公共交通の現状と課題を踏まえ、目指す将来都市像の実現に向けた地域公共交通の再編。市民の生活と移動を支援し、持続可能な地域公共交通を実現する。</li></ul> <p>（3）重点的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市営バスの再編（AIオンデマンド交通の本格導入）</li></ul>

- ・通勤通学の利便性向上に向けた検討
- ・事業者等との連携促進（メルバススポンサーの拡大）
- ・分かりやすい総合時刻表、利用ガイドの作成
- ・通学割引などによる利用促進

#### （４）計画の推進体制

・施策の具体化に向け、国や県による支援等を受けながら、市、交通事業者、市民、企業等が積極的に投資、参画することで、地域の移動手段を地域で「考え・作り・育て・活かす」取組を一体となって推進する。

#### （５）再編の中心となる市営バス事業の主な課題

- ・各路線の便数を一定程度確保しているものの、休日や平日の昼間などは「空気を運んでいる」状態が多く見られる。
- ・路線によっては便数が少ない。
- ・運行経費が年々増嵩している。
- ・高齢者の目的が多い、北陸中央病院に行くために、路線によっては、駅などで乗り継ぐ必要が生じる。
- ・停留所の増設を求める声が多い。（停留所まで遠い）

## 2 AIオンデマンド交通「チョイソコおやべ」について

### （１）導入における基本方針

- ・市営バスの課題を整理し、改善を図る。
  - ・見直しの方向性は「区域運行型のオンデマンド交通」とする。
  - ・以下の5項目を目標とする。
- ① 交通弱者に配慮した地域公共交通
  - ② 地球環境にも配慮した地域公共交通
  - ③ スマートな地域公共交通
  - ④ お出かけ促進と地域経済を支える地域公共交通
  - ⑤ みんなで支える持続可能な地域公共交通

### （２）導入から本格運行に至る経過

- ・令和5年4月から段階的に実証実験を行い、利用者数の状況などを調査。また、同年11月には利用者アンケートを実施しニーズや満足度などを調査した。
- ・これらの結果を踏まえ、令和6年4月から本格運行を開始した。（12月議会で説明、決定した）

### （３）運行内容

- ・運行形態～区域運行
- ・運行日～毎日（年末年始のみ運休）
- ・運行系統～市内全域（予約に応じて運行）

- ・運行時間～午前8時から午後5時
- ・運行予約～電話予約及びスマートフォン等でのインターネット予約
- ・乗降場所～自宅前及び停留所342か所(4/10現在)
- ・料金～1乗車400円

※全日、全市民へ対応させた

### 3 市営バス(メルバス)について

#### (1)メルバススポンサー制度

- ・市民に親しまれ、地域で支える持続可能な交通サービスとすることを目的に、市内事業者等から協賛金をいただく制度。
- ・スポンサーによる協力として、停留所の提供、停留所表示の掲示又は設置、パンフレット・ポスターの配置又は掲示。
- ・スポンサー数は、R5が72社(2,187千円)、R6が72社(3,972千円)であり、協賛金額が増加している。

#### (2)市営バス事業費と年間利用者数の推移

- ・事業費については、R5決算見込額とR6予算額を比較すると、国・県の支出金が減少した分、一般財源が10,000千円程、増加している。
- ・メルバスの利用者数は、平成27年度の路線改正や増便、土日祝日運行開始、平成29年度の75歳以上等の料金無料化などにより増加傾向にあったが、令和2年度からはコロナ禍の影響により大幅に減少した。更に、令和5年度には、定時定路線であるメルバスを大幅に減便し、乗合タクシーを運休して、AIオンデマンド交通チョイソコに段階的に移行したことで、更に大きく減少した。市営バス(メルバス)から、AIオンデマンド交通(チョイソコ)に置き替わったと分析している。
- ・定期路線バスから、小回りが利いて高齢者が使いやすいAIオンデマンド交通へと、方向転換していることが見て取れる。

### 4 鉄道及び駅活性化の取組について

#### (1)市の所管課(窓口)について

- ・鉄道(新幹線含む)は、企画政策課が担当し、市営バスとAIオンデマンド交通は生活環境課が担当している。

#### (2)鉄道の運行概要

- ・あいの風とやま鉄道の石動駅の一駅のみ。
- ・平日1日の運行本数は、金沢方面が31本、高岡・富山方面が32本となっている。

#### (3)利用者数

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年までは、1,500人／日前後の利用があったが、コロナ禍の影響で約1割程度、減少した。</li> <li>・令和2年から3年にかけて、定期利用者数が増加したことにより、コロナ禍前に近い利用者数まで回復してきている。</li> </ul> <p><b>(4) 利用者の満足度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査の結果では、満足、やや満足、普通を合わせると約8割となり、大きな不満はない。一方で、利用者の2/3が増便の要望を回答している。</li> </ul> <p><b>(5) 利便性向上の取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用環境の充実と他の交通手段との連携強化(乗り継ぎ改善)</li> <li>・パーク&amp;ライド駐車場の利用促進</li> <li>・快適性向上のための車両導入</li> <li>・混雑緩和等に向けた輸送力強化</li> </ul> <p><b>5 地域公共交通全般について</b></p> <p><b>(1) 高齢者運転免許自主返納支援事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・申請件数が激減したため、令和3年度で補助を廃止とした。</li> <li>・現在はチョイソコおやべの回数利用券の発行を行い、利用促進とともに、高齢者を中心とした買い物支援及び外出支援につなげている。</li> </ul>
<p>視察の様子</p>	<p>(担当課より説明)</p>  <p>(小矢部市議会議場にて)</p> 
<p>質疑応答</p>	<p><b>質問</b> チョイソコおやべの予算、スポンサー効果、協賛金の使途について。</p> <p><b>回答</b> メルバス、チョイソコおやべを合わせた事業費としては、令和6年度予算で67,519千円。協賛金額はまだ目標に達していないが努力している。協賛のメリットとしては、その分、停留所ができるので、利用客の増加につながっている。企業側としては、公共交通を下支えしていることについて、市民にアピールできる。ネッツトヨタ富山さんからは、チョイソコ通信を発行送付いただいております。特典付きということもあり、高齢</p>

者利用に結びついている。

**質問** 事業者への支払い（予算）は。

**回答** メルバス、チョイソコの運行（タクシー協会）に対して3,650万円、運行支援業務（ネッツトヨタ富山）に対して1,600万円。

**質問** 高齢者、医療関係に力を入れているが、買い物難民への対応はどうか。

**回答** 医師会に対して事前に相談、協力、協賛をいただいた。スーパーマーケットやドラッグストアにも、市担当者が個別に回り協力要請をした。結果として、当初の停留所増設の要望に賛同いただき、全て停留所を設置できた。

**質問** 小矢部市地域公共交通計画の推進体制、進捗管理の考え方について。市営バスとなった背景は。

**回答** 県の計画も同時に策定された。基本計画の中の方針も同様の考え方。高齢者の運賃を無料としてきたが、このままでは持続可能な地域公共交通とは言えず、新たな協賛スポンサーを探し、高齢者からも受益者負担の意味で、現実的な運賃体系とした。元々、民営バスが廃止となったところが、市営バスとなっている。まちづくりは立地適正化計画との関連性を考えながら行っている。

**質問** 運転手確保支援策、運行支援業務について。

**回答** アイシンのコールセンターを利用しているが、今後、利用する自治体が増えてくれば、スケールメリットが出てきて安価になってくるのではないかと考えている。ドライバー不足はやはり課題であり、個別に業者を指定すると運転手が不足することから、三者に業務運行をお願いしている。チョイソコおやべの利用が増えれば、タクシー利用が減ることになるので、そうしたところにも配慮しながら委託契約を結んでいる。

**質問** 自宅前停留所の今後の可能性について。停留所が増加していくことに対応していけるのか。

**回答** 現状としては、バランスがとれていると考えている。停留所が飛躍的に増えてくれば課題となりえるが、今のところは問題となっていない。

	<p><b>質問</b> スポンサー制度について。スポンサーを獲得するための営業の主体は。</p> <p><b>回答</b> 当初は、ネッツトヨタ富山さんが営業に回るということがあったが、門前払いが多かった。その後、方法を変えて、自分自身が市の担当課長として、一緒に同行して回るようになり、それなりに実績を上げられるようになった。</p> <p><b>質問</b> 協賛金の配分は。全て市に入るのか。</p> <p><b>回答</b> 全て、市の歳入として、入れている。</p>
委員会所感	<p><b>【佐藤正典委員長】</b></p> <p>小矢部市は北陸唯一のアウトレットパークが立地していることで有名だが、まちの特性としては、隣接する高岡市や県境を跨いで金沢市とのベッドタウンを形成していることだ。</p> <p>策定された「小矢部市地域公共交通計画」は令和6年度から令和10年度までの5カ年計画で、大きな特徴としては「地域の移動手段を地域で考え・作り・育て・活かす」取組にある。その考え方は、限られた予算（財源）と人的資源（市体制、運転手確保等）を必要な地域に振り向けていくことにあると理解した。基本方針にある、交通弱者への配慮、スマートな地域公共交通（わかりやすく使いやすい）、高齢者の外出を支えること、受益者負担の適正化などは、その具体的目標である。</p> <p>A I デマンド交通「チョイソコおやべ」は、令和5年4月から一年間をかけて実証実験を行い、令和6年4月から本格運行を開始している。特筆すべき内容は、「運行日は年末年始を除く毎日」「運行系統は市内全域」としていることであり、全日・全市民へ対応させていることだ。乗降場所も自宅前・停留所（市内321カ所設置）と小回りを効かせて利便性を図っている。</p> <p>こうした対応は、地域公共交通の主体を市営バス（メルバス）からA I デマンド交通「チョイソコおやべ」に置き換えることで可能にしている。必要な公共交通を補強していく、小矢部市地域公共交通計画の考え方に沿ったものであり、こうした考え方と取組は、今後の柏崎市での議論の参考にしたい。</p> <p>鉄道及び駅活性化については、冒頭に記したベッドタウンとしての特性から、パークアンドライド促進と乗り継ぎ改善に重点をおいた取組が理解できた。</p>

**【近藤副委員長】**

小矢部市では、今年度からスタートした地域公共交通計画において、地域ニーズに対応した公共交通ネットワークの再構築、交通DXの推進による誰もが利用しやすい公共交通環境の整備、多様な共創による公共交通の利用促進を基本方針・目標として様々な施策を講じている。

特に「多様な共創」を具体化したメルバススポンサー制度は印象的だった。同制度はA I オンデマンド交通チョイソコおやべの支援として、市内企業から協賛金を募り、スポンサー企業は乗降ポイントとして登録することで、利用者の増加が期待される。単なる支援ではなく、Win - Win の仕組みを構築することが協力を得るためのポイントだと思う。また、スポンサー募集には担当課職員が自ら各企業に出向き、着実に協力企業を増やしており、その熱意にも感銘を受けた。

柏崎市においても同様の制度を導入し、官民が協力して「地域の生活の足を守る」気運の醸成を図ることが必要ではないかと感じた。

**【山本委員】**

小矢部市地域公共交通計画については、市民や利用者、高校生へのアンケート調査、交通事業へのヒアリング調査を踏まえ公共交通の課題を整理した内容になっていた。A I デマンド交通「チョイソコおやべ」については令和6年度から本格運行され予算規模約6800万円で、バス停設置数342か所（75歳以上の方などは自宅前1078か所）で運行を行っている。市営バス（メルバス）については、令和4年から実証運行を重ねて5路線に集約し、特にメルバススポンサー制度を活用し、令和6年度は72社約400万円の協賛金で経費を補填する取組を行っている。鉄道及び駅活性化の取組についてはパーク&ライド駐車場の利用促進や沿線自治体との連携など取組支援の説明があった。地域公共交通全般については高齢者運転免許自主返納支援を行い、運転手確保については事業者がそれぞれ確保するとの事。小矢部市では交通施策を3つの課で担当しているとの事で大変参考になった。

**【持田委員】**

交通サービスにあたって様々な工夫がされている。民営バスと共存して市営バスが運営されていることに驚きを感じた。同

時に、満足度は95%と報告され、外出頻度をも高める結果となっていることは、市民に寄り添った政策の大きな反映と思われる。また、富山県の交通政策が反映していることと思われる。交通政策は文字通りのまちづくりと一体であり、今日的な移住・定住政策も組み込まれている。

#### 【佐藤和典委員】

市営バス事業である「メルバス」や「乗合タクシー」は、空車運行や経費の増大、停留所の増設要望などの課題があった。このため「財政負担を抑えつつサービスを充実させること」「高齢者等の交通弱者の移動需要に対応すること」「効率的な運行を行うこと」を目的とした区域運行型のAIオンデマンド交通「チョイソコおやべ」を導入した。選定理由は「全国での導入実績が多いこと」「運行中止された例がないこと」「高齢者等に配慮されたコールセンターの運営状況」などが挙げられる。また、「チョイソコおやべ」は市内全域を区域運行することで公共交通空白地域の解消や高齢者等の外出促進に寄与し、スポンサー制度により市営バス事業の収支改善が図られる等の特徴を有する。これら複合的な事業の導入により、地域経済を支える地域公共交通の実現が図られることにつながり、持続可能性は高まっていくものと考えている。

#### 【星野委員】

鉄道については利用満足度が8割ととても満足度が高い。1時間に多いと7便あるがさらに増便の要望が多い現状。1日乗車数は約1500人と高い利用状況です。利用促進の取り組みとして民営・市営バスとの乗り継ぎの改善やパーク&ライドの促進により利便性向上・充実で利用者の増加をはかっています。柏崎市とは鉄道の役割が少し違いますが連携、利便性向上の取り組みは参考にしたいと思いました。

地域交通の現状は、鉄道・民間路線バス「生活路線3・産業路線2」・市営バス「生活路線5」・乗り合いタクシー「生活路線5」・乗り合いタクシー「3社」で地域交通を維持していました。課題としてメルバスでは、休日、平日の昼間は乗車が少なく「空気を運んでいる」と言われている。当然運行経費が増嵩しているなど他の公共交通も課題がある中で令和5年4月から実証運行で「チョイソコおやべ」が導入高齢者を中心に登録者・利用者が徐々に増加。10月から開始した最終系形となってからは、6



	<p>か月で 10558 人の乗車があった。現在では、平日は 51 人から 79 人、休日も 26 人から 39 人と増加している。利用者のアンケートでも満足度は 95% と高く効果は、移動手段の変化「自家用車・家族による送迎から転換できた (75 歳以上・65 歳以上は運転免許返納すると自宅前での乗車ができる)」さらに外出頻度増加など高い効果が得られたと報告されています。運行委託は市内 2 社のタクシー協会に 3650 万円で委託。運行支援はネットヨタ富山 (株)「アイシン」がコールセンター業務と運行管理システム等を 1600 万円で委託しています。今後さらに利用促進に取り組んでいかれると説明を受けました。</p> <p>また、メルバススポンサー制度について「メルバスとチョイソコの運行に対して協賛する制度」説明を受けました。スタートは、令和 5 年は 72 社 (2187 千円)、令和 6 年は 72 社 (3972 千円) 今後さらに増加を目指す。財政難の中でこの取り組みは柏崎市も検討して良いと考えます。</p> <p>その他多くの事について学ばせて頂きました今後の活動に活かしていきます。</p>
--	--